

柱Ⅰ 安全安心でいきいきとくらせるまちづくり

1 安全なまちづくりの推進

第五次総合計画（案）	第四次総合計画
<p>地震や津波、集中豪雨、火災などの様々な災害の発生に備えた防災・減災対策を徹底し、災害から町民の命と財産を守り、被害を最小限にとどめることができるよう、自助・共助・公助の考えの下地域の防災対策を充実し、災害に強いまちづくりをめざすとともに、消防・救急体制の整備と予防体制の充実を推進します。</p> <p>また、地域ぐるみの交通安全、防犯、消費者保護への対策を推進し、町民生活の安全確保を図ります。</p> <p><策定の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な災害の発生に備えた防災・減災対策の徹底 ○ 自助・共助・公助による災害に強いまちづくり ○ 消防・救急体制の整備と予防体制の充実 ○ 交通安全対策、防犯対策、消費者保護対策による町民生活の安全の確保 	<p>予測できない災害から、かけがえのない命や財産を守るため、普段からの防火・防災意識の高揚と緊急時の対応知識の普及を図るとともに、緊急時に的確かつ迅速な対応ができるよう、防災体制の強化と消防・救急体制の整備を推進します。</p> <p>また、地域ぐるみの交通安全対策や防犯対策を推進し、町民生活の安全の確保を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 危機管理 ● 消防・救急・救助 ● 生活安全

【社会の動向】

- 予想される首都直下型地震
- 地球温暖化に伴い、激甚化する風水害や土砂災害が頻発
- オレオレ詐欺等の特殊詐欺の多発

【アンケート調査】

- 「安全なまちづくりの推進（危機管理／消防・救急・救助／生活安全）」に対する重点的に取り組むべき施策の優先度は、69.1%で第1位（19項目中）となっている。

【ワークショップでの意見】

- ◇ 目指したいまちのイメージ「今あるものを大事にする、活かす町」
 - 街灯を増やすことで安全に
- ◇ 目指したいまちのイメージ「自然と共存した安全・安心な町」
 - 災害に負けないで自然と共存できるまち
 - 気候が荒々しくなっている。防災を見直し課題を抽出する必要があるそう
 - 自然災害などの情報を受け付けるツール、セクションがほしい
 - 町に電灯がない
- ◇ 目指したいまちのイメージ「自然と共存した安心・安全な町」
 - 門戸活動（LED・太陽灯）もっと増やす

- 困り事がすぐつながる
- 地区によって違うことを認識し合う

【卓話集会等での意見】

- 災害時の情報提供の充実・迅速化
- 災害時の避難所等の体制整備
- 災害時の地域と町の連携
- 災害時要支援者等への支援の充実
- 消防活動が円滑になる環境整備
- 交通安全対策の推進

【各種団体との意見交換会】

- 下校時刻を防災行政無線で呼び掛けることで、町民みんなが他人事でなくなり、子どもの見守りに関わってくれる。
- 斜面地の開発により山崩れ等の甚大な災害が発生しており不安がある。空き家の活用について考える必要がある。

柱Ⅰ 安全安心でいきいきとくらすまちづくり

2 子どもを産み育てやすい環境づくりの推進

第五次総合計画（案）	第四次総合計画
<p>女性の社会進出に伴い、未来を担う子どもたちを安心して産み、育てられるよう、妊娠から出産、育児まで切れ目なく地域社会全体で子どもたちの成長を支えるための教育・保育への環境づくりと、子育て世代のニーズに合った多様な子育て支援機能の充実を図ります。</p> <p><策定の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人と人とのつながりによる子育て支援の協力体制の充実 ○ 子育て世代のニーズに合った子育て支援サービスの充実 	<p>少子化への対応や女性の社会進出に伴い、安心して子どもを産み、育てられる子育て環境づくりを促進します。</p> <p>また、家庭・地域・行政が連携し子どもを育てていく体制づくりを促進するとともに、多様な保育サービスなど子育て支援機能の充実を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子ども・子育て支援

【社会の動向】

- 共働き家庭や核家族の増加
- 地域の子育て力の低下
- 子ども・子育て支援新制度の開始
- 幼児教育・保育の無償化の開始

【アンケート調査】

- 「子どもを育てやすい環境づくりの推進（子ども・子育て支援）」に対する重点的に取り組むべき施策の優先度は、67.1%で第2位（19項目中）となっている。

【ワークショップでの意見】

- ◇ 目指したい町のイメージ「子育てや高齢者に優しい手助けのある町」
 - 読み聞かせ活動を充実させる
 - 子育てネットワークを作る
 - 総合的子育て支援システムを創出する
 - 待機児童対策の充実（未就学）
 - 学童保育の支援員をふやす、支援する
 - 学童保育と放課後子ども教室を共用
 - 地元で短時間働ける場をつくる

【卓話集会等での意見】

- 子育て支援施策の推進
- 待機児童対策の推進
- 子育て世帯への経済的支援の充実
- 子育てに適した環境に恵まれている

【各種団体との意見交換会】

- 子育てして楽しい町にしていくことが大事である。
- 大磯町は通院に係る小児医療費の助成は、小学生までが対象であるが、中学生まで小児医療費助成があると、子どもの体調がすぐれないときにすぐに受診できるという安心感がある。
- 子どもを産み育てたいと思うためには、幼稚園や保育園、学童保育などの要素が重要になってくる。
- 現状として待機児童の発生や学童保育に入れないといった問題がある。人員や環境面等から手厚くしていくべきであり、子育てする人をサポートできる環境が整うことが重要である。
- 朝の子どもの居場所づくり事業を利用しており、出勤時に子どもを預けられるので大変ありがたい。
- 第2子以降の保育料の無料化は引き続き実施してほしいが、年齢制限は撤廃してほしい。
- これからの大磯町を考えるには、働いて子育てをする若い世代に手厚く援助し、町に住んでもらう必要がある。
- 復職後に保育園に通う前後の時間に子どもを預かる制度が他の自治体にはある。町でも子育て世代のニーズに合った制度を検討してほしい。
- 大磯は多子世帯が多い。茅ヶ崎以东では多子世帯はほとんど見られず、大磯町の特徴である。多子世帯への祝金支給など、わかりやすい政策も有効である。

柱Ⅰ 安全安心でいきいきとくらすまちづくり

3 健康と生きがいがづくりの推進

第五次総合計画（案）	第四次総合計画
<p>町民一人ひとりがこころと体の健康の大切さを自覚し、健康づくりを意識した生活を送ることができるよう、子どもから高齢者までライフステージに応じた健康増進や疾病予防に対する支援を行い、健康寿命の延伸をめざすとともに、医療機関との広域連携などを図り、町民が安心できる医療体制を確保します。</p> <p>また、世代間交流や地域のボランティア活動など、高齢者の社会参加機会の充実を図り、住み慣れた地域の中でいきいきとくらす地域づくりや仲間づくりを促進します。</p> <p><策定の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ライフステージに応じた健康増進や疾病予防に対する支援による健康寿命の延伸 ○ 誰もが安心できる医療体制の確保 ○ 世代間交流や地域のボランティア活動などの社会参加の充実 	<p>高齢者の生きがいがづくりの推進</p> <p>これまでの知識・経験を幅広く生かした地域活動やボランティア活動などに積極的に参加する機会を通じて、いきいきと生活できる地域づくりや仲間づくりの促進に努め、高齢者の生きがい対策や社会参加の充実を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生きがいがづくりと社会参加 <p>健康づくりの推進</p> <p>自らの健康管理に高い関心を持ち、自分の健康は自分で守り、自分でつくり上げることを基本に、子どもから高齢者まで年齢に応じた健康の維持増進と疾病予防を図ります。</p> <p>また、医療機関との広域連携を図り、町民が安心できる医療体制の充実を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 保健・医療 ● 健康スポーツ

【社会の動向】

- 若い頃からの健康寿命対策
- 増加する高齢者人口と膨らむ社会保障費

【アンケート調査】

- 「健康づくりの推進（保健・医療／健康スポーツ）」に対する重点的に取り組むべき施策の優先度は、前回調査（保健医療の充実）の24.4%から33.5%へ上昇している。
- 「高齢者の生きがいがづくり」に対する重点的に取り組むべき施策の優先度は、前回調査との比較はできないが、約4割（42.9%）となっている。

【ワークショップでの意見】

- ◇ 目指したい町のイメージ「子育てや高齢者に優しい手助けのある町」
 - 健康増進プログラム（場所）を増やす
 - 楽しくすごせる場を増やす（元気でくらし続ける）

【卓話集会等での意見】

- 町内医療機関の充実
- 健康寿命延伸への取組みの継続
- 高齢者向けの講座等の充実

- 高齢者の働く場の確保

【各種団体との意見交換会】

- 特になし

柱Ⅰ 安全安心でいきいきとくらすまちづくり

4 こころふれあう共生社会の推進

第五次総合計画（案）	第四次総合計画
<p>高齢者や障がいを持つ人が、住み慣れた地域で自立した生活が送れるような支援を進めます。</p> <p>また、少子高齢化が進む中、町民一人ひとりの多様な生活ニーズに柔軟に対応し、町民が将来にわたり安心して生活を送れるよう、地域での支え合い、助け合いの仕組みをつくり、共生社会の推進を図ります。</p> <p><策定の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者や障がいを持つ人が地域で自立した生活を送るための支援 ○ 誰もが安心して生活を送れるための助け合いの仕組みづくり 	<p>高齢者や障がいを持つ人が、地域で自立した生活が送れるような支援体制の確立を図り、思いやりと助けあいによる福祉活動を活発にし、地域福祉の連携づくりの確立に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域福祉 ● 障がい者福祉 ● 高齢者福祉 ● 保険・年金

【社会の動向】

- 国が目指すのは、安心につながる社会保障
- 地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら自分らしく活躍できる「地域共生社会」
- 人口減少・高齢化による地域機能の低下や、公共サービスの提供能力の低下

【アンケート調査】

- 社会問題となっている事項で、今後の大磯町において課題となる、既に課題となっている事項では、「安心して暮らし続けられる支援」(34.0%)が第1位(17項目中)、「社会保障費の増大と制度の維持」(30.9%)が第3位(17項目中)となっている。

【ワークショップでの意見】

◇ 目指したい町のイメージ「子育てや高齢者に優しい手助けのある町」

◆ 高齢者支援の充実

- 高齢者支援隊（見守り、買い物など）
- 政策を洗い直して、町民を大事にする体制に
- 楽しくすごせる場を増やす（元気で暮らし続ける）
- 認知症カフェをつくる
- 福祉に向けた優秀な人材を確保する
- 福祉の担い手を大事にするための支援
- 介護福祉の事業の支援、大切にしてほしい

◆ 手助け体制の整備

- 第2のシルバー人材センターを作る
- シルバー人材センターのやれることを増やす
- 高齢者を支える担い手として育てる

- 町の事務等人手が足りないところを手伝ってもらう
- ボランティア団体をまとめる団体をつくる
- ボランティアの組織づくり
- 困り事ネットワークの作成
- やれること、考えられることがある人のネットワーク
- 町とつながりを持って動く人を増やす、集める
- ワークショップを繰り返して発掘する

◇ 目指したい町のイメージ「自然と共存した安心・安全な町」

- あいさつ運動
- 見覚えのある人に会える規模のやさしい町
- ボランティアセンターの創設

【卓話集会等での意見】

- 福祉的支援の充実
- 認知症対策の充実
- 高齢者の移動手手段の確保
- 高齢者のごみ出し支援
- 社会保険制度の適正な運営

【各種団体との意見交換会】

- 高齢化が進むとごみ出しが困難な人が増えると思う。有料化しても戸別収集の実施を検討してほしい。

柱Ⅱ 町民の力や知恵が集まるまちづくり

1 交流と協働のまちづくりの推進

第五次総合計画（案）	第四次総合計画
<p>世代間交流や自治会、各種団体などの地域活動の支援を行い、町民が主体となり地域の課題に取り組むなど、コミュニティ活動の活性化を図ります。</p> <p>また、町民一人ひとりが持っている力を出し合い、まちづくりの輪を広げ、交流・町民参加型のまちづくりをめざします。</p> <p><策定の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域活動への支援によるコミュニティ活動の活性化 ○ 交流・町民参加型のまちづくり 	<p>世代間交流や自治会、各種団体などの地域活動の支援を行うとともに、交流の機会を積極的に創設してコミュニティ活動の活性化を図ります。</p> <p>また、まちづくりに対する人材育成や自主的なまちづくり団体の活動・育成・支援に努め、交流・参加型のまちづくりをめざします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 町民参画・交流

【社会の動向】

- まちづくりに参画する町民意識の高まり
- 公益的な分野における官民の連携
- コミュニティ活動への人手不足、高齢化

【アンケート調査】

- 「交流とひろばづくりの推進（町民参画・交流）」に対する重点的に取り組むべき施策の優先度は20.8%と、優先度はそれほど高くない。
- 意見交換会や説明会などを、しっかりやってほしい。（自由記述）
- 自治会の役割を見直した方が良い。（自由記述）

【ワークショップでの意見】

- ◇ 目指したいまちのイメージ「誰もが風通し良くくらす町」
- ◆ 新旧・世代間の交流の促進
 - フリーなコミュニティの場（タウンカフェ）→ ICT（Wi-Fi等）インフラを充実、空き家利用
 - 町民のたまり場を作る。行政は遠目で管理しすぎない
 - 子どもの頃から話し合う場をつくる
 - 若い世代の意見が出せるようにする
- ◆ 地域活動の活性化
 - 駅前に休憩所、観光案内所がある場所、コミュニティ
 - NPO、ソーシャルワーカーをバックアップする

【卓話集会等での意見】

- 地域コミュニティ活動の衰退（高齢化、若い世代の参加減少）
- 地域会館の維持
- 地縁以外の新たなコミュニティの形成や多様な連携の構築（関係人口、民間事業者、行政など）

【各種団体との意見交換会】

- 特になし

柱Ⅱ 町民の力や知恵が集まるまちづくり

2 開かれた町政と情報化の推進

第五次総合計画（案）	第四次総合計画
<p>高度情報化によるICTの活用など、様々な手段や機会を通じて、広報・広聴活動を充実するとともに、町民と行政がお互いにコミュニケーションをとり、町政運営やまちづくりに関する情報共有を図ります。</p> <p>また、町民と行政、それぞれが持つ得意分野を生かし、協働によるまちづくりを推進します。</p> <p><策定の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ICT の活用などによる広報・広聴活動の充実 ○ 町政運営やまちづくりに関する情報共有の推進 ○ 町民と行政による協働のまちづくりの推進 	<p>様々な手段や機会を通じて、広報・公聴活動を充実するとともに、情報公開の一層の推進を図り、町民と行政が同じ問題意識を持ちまちづくりに取り組めるよう、情報の共有化に努め、町民と行政との協働によるまちづくりを推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 広報・広聴と情報化

【社会の動向】

- ICT等を活用した情報伝達手段の多様化・高度化
- まちづくりに参画する町民意識の高まり

【アンケート調査】

- 「開かれた町政と情報化の推進（広報・広聴と情報化）」に対する重点的に取り組むべき施策の優先度は36.9%と、優先度はそれほど高くない。
- 町政情報については、依然として広報、ホームページ、チラシ・回覧板、広報掲示板から入手している。

【ワークショップでの意見】

◇ 目指したいまちのイメージ「ちょっと立ち寄れる居場所、魅力のある町」

◆ 立ち寄れる場所の充実

- 町役場のホールなど、町民が立ち寄れる工夫を
- 駅前に人が集まれる場所
- café（おしゃれ）
- 誰でも立ち寄れるコミュニティスペースをつくる
- 公民館を開放する
- 好きな時にいけるちょっとお茶飲める場所
- 空き家の活用

◆ 今ある資源を磨く・発信する

- 住居状況ネットワークを作る、コミュニティを活性化する
- 町民が気軽につぶやけるSNSを作る
- 町民への広報の充実

◇ 目指したいまちのイメージ「誰もが風通し良くくらせる町」

◆ 風通しの良い町

- 座談会の内容をシェアする場が必要
- 利用施設の利用仕方の簡素化。インターネット、スマホetc申し込み可。いつでも話し合える場所
- 平成目安箱のやり方を拡充する

◆ 町事業・活動の周知

- 町の活動の広報力の強化
- 町役場に「すぐやる課」を作る → ワンストップで振り分ける
- 困り事が集まる場所を作る
- 困り事を相談する部署を案内する一覧表（ごみの分別表のような）
- 皆が集まりやすい調整を

【卓話集会等での意見】

- 町政情報の情報提供の充実・透明化・見やすさ向上
- 効果的なタウンプロモーションの実施

【各種団体との意見交換会】

- 町ができないことは、ボランティアを募ってはどうか。町は町民に協力を求めることが少ない。これから高齢化で時間に余裕がある方も増えるだろうし、そのような活動が健康にもつながる。
- 計画策定の時にだけヒアリングを行うのではなく、普段から現場に出てきて意見を聞いてほしい。開かれた行政を実現してほしい。

柱Ⅱ 町民の力や知恵が集まるまちづくり

3 持続可能な行財政の運営

第五次総合計画（案）	第四次総合計画
<p>中長期的な視点に立ち、将来にわたる課題に計画的に取り組むとともに、持続可能な行財政運営に努めます。</p> <p>また、時代の変化に即した行政サービスを提供するため、民間経営の視点や自治体間の広域連携、未来技術の活用など、積極的に行財政改革を推進します。</p> <p><策定の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中長期的な視点に立った持続可能な行財政運営の推進 ○ 広域的な連携を含めた積極的な行財政改革の推進 ○ 未来技術を活用した行政運営の推進 	<p>多種多様な行政需要や地方分権の推進に的確に対応するため、長期的な財政状況を見据えるとともに、行政管理システムの構築、広域行政など効率的な行政運営に努め、積極的に行財政改革を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 行財政運営

【社会の動向】

- 税収の減少や社会保障費の増加などによる地方財政の厳しい現状
- 多様な行政需要と人員不足に対応した効率的・効果的な行財政運営

【アンケート調査】

- 「効率的な行財政運営（行財政運営）」に対する重点的に取り組むべき施策の優先度は53.0%と、第4位（19項目中）となっている。
- 人口に見合ったまちづくりを考え、行政の支出も重点を考え振り分けるべき。（自由記述）
- すべてを行政に頼るのではなく、個人の負担もやむを得ない。（自由記述）
- 効率的な税金の使い方をしてほしい。（自由記述）

【ワークショップでの意見】

- ◇ 目指したいまちのイメージ「ちょっと立ち寄れる居場所、魅力のある町」
- ◆ 財政の改善
 - 部分的な町民への業務委託
 - 町民と役場のコラボレーション
 - ふるさと納税の活用、コミュニティバンクの設立
 - 町職員の育成

【卓話集会等での意見】

- 町財政の健全化（税収増、町債削減）
- 職員の資質向上（要望対応、引継ぎ徹底など）
- 職員の力を生かせる組織づくり

- 公共施設の適正な維持管理
- ふるさと納税の活用
- 町税等の住民負担の軽減
- 町政向上のための一定の財政負担増
- 町政運営のスピード感向上
- 行政事務の効率化（ICT活用）

【各種団体との意見交換会】

- 人口が減少するなら減少するなりの対応を取るべきである。職員数や議員定数の削減等、10年後20年後を見据えた身を切るような対策を考える必要がある。
- 子育てや教育に対する施策は周辺自治体も力を入れているので、周辺自治体に無い町特有の移住・定住施策を考える必要がある。
- これから子どもの数を維持することは、町にとってプラスである。あらゆる施策を手掛けて中途半端となるよりも、何かに特化して注力していく必要がある。これからは斬新的な取組みが求められる。
- 中学校給食が実現すれば保護者としてありがたいが、人口減少等を考えると多額の費用を掛けることが心配でもある。既存の施設を活用して効率的に実現してほしい。
- 若い世代の方が移住してきており、移住のきっかけなどを調査すべきである。
- ふるさと納税の制度を活用し、町の魅力を発信していくことも必要である。
- 新しい魅力をつくるのではなく、今ある町の魅力を充実させ、それを発信していくことが重要である。
- イベント等を実施するためには、町有施設のインターネット環境も必要である。
- 他の町でやらないことをやってもらいたい。

柱Ⅲ 快適でくらしやすいまちづくり

1 身近な自然環境空間の形成

第五次総合計画（案）	第四次総合計画
<p>自然と調和した歴史・文化資源とともに、高麗山や鷹取山などの豊かな山林や緑地、こゆるぎの浜などの美しい風景や貴重な生態系など、遺された優れた自然環境の保全に努めます。</p> <p>また、海岸や河川、里山などの人と自然とがふれあい、楽しめる環境づくりを推進します。</p> <p><策定の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 優れた自然環境の保全 ○ 人と自然とがふれあい、楽しめる環境づくりの推進 	<p>高麗山や鷹取山などの豊かな山林や緑地、こゆるぎの浜などの美しい風景や貴重な生態系など、優れた自然環境の保全に努めます。</p> <p>また、身近に自然とふれあうことができるよう、海岸や河川、里山などの人と自然とがふれあい、楽しめる環境づくりを促進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然環境 ● 公園 ● 海岸

【社会の動向】

- 人と自然との共生
- 生物多様性の保全

【アンケート調査】

- 地域環境の「評価が高い項目」として、「海、山、自然の豊かさ」、「空気の良いさ」、「日当たりや風通し」が上位を占めている。
- 「大磯町に住み続けたい理由」として、「自然環境が良い」が33.1%で第1位（9項目中）となっている。
- 「大磯町でどのような生活をしたいか」という設問に対して、「日常的に山、海、川を楽しみ、菜園を楽しむような自然につつまれた生活をしたい」が27.5%で第1位（8項目中）となっている。
- 子どもを安心して遊ばせられる広い公園が1つもない。（自由記述）

【ワークショップでの意見】

- ◇ 目指したいまちのイメージ「自然と共存した安全・安心な町」
 - 不用・不要の土地を放棄できるルールがほしい（国）
 - 環境整備のためのグループ作り
 - バイオマスで発電
 - 安全な町、おだやかな町だという印象をやんわりと伝えたい
 - 道路や山の整備や活用の参加者を募ってほしい
 - 歴史が感じられる町であったほしい

【卓話集会等での意見】

- 子どもたちの遊び場所の確保
- 通年で賑わう海岸利用の推進
- 大磯港西荷さばき地の見直し

【各種団体との意見交換会】

- 子どもたちが体を動かせる場所がない。町内の公園は利用の制限が多く、キャッチボールやサッカーなどができない。
- 平塚総合公園や中井中央公園のような子どもたちが遊べる場所がない。子育てをする者にとって、1日過ごせる場所があると良い。
- 運動公園が有効に利用されていない。小さい子どもの集まる施設にしていきたい。
- 海岸が賑わい交流施設の整備とともに、海岸利用を活性化できるようになれば良い。
- 海岸を様々な年代の方に利用してもらうことで、大磯を気に入る移住にもつながる。
- 大磯町の自然である海と山の緑は大きな資産である。
- 山の自然を削り住宅を建てるのではなく、平地の空き家のあるところにリフォームや新築などで居住してほしいので、補助制度の創設や規制がほしい。
- 多くの方が大磯の自然や静かな環境を魅力に感じて移住してきているのに、そうした良さを便利さが消してしまうのではないかと危惧する。
- 自然や静かな環境に魅力を感じて大磯町が選ばれている。鎌倉市のようなオーバートーリズムは避けたい。

柱Ⅲ 快適でくらしやすいまちづくり

2 良好な地域環境と循環型地域社会の形成

第五次総合計画（案）	第四次総合計画
<p>町民、行政、事業者などが適切な役割分担と連携のもと、環境保全や美化活動の促進を図るとともに、河川管理や公共下水道、合併処理浄化槽の整備・普及による河川等の水質保全、環境に負荷の少ないくらしや、再生可能エネルギーと省エネルギーの普及促進を進め、地域環境の保全と意識向上を図ります。</p> <p>また、あらゆる主体が協力し、家庭や事業所における廃棄物の排出抑制や再利用、再生利用を進める循環型社会の形成を推進するとともに、一般廃棄物の広域処理を推進します。</p> <p><策定の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ あらゆる主体の適切な役割分担と連携による環境保全や美化活動の促進 ○ 適正な河川管理の推進 ○ 公共下水道や、合併処理浄化槽の整備・普及による生活排水対策の推進 ○ 環境負荷の少ないくらしや再生可能エネルギーの活用と省エネルギーの普及促進による地域環境の保全 ○ 廃棄物の排出抑制や再利用、再生利用を進める循環型社会の推進 ○ 一般廃棄物の広域処理の推進 	<p>良好な地域環境の形成</p> <p>町民、行政、事業者などあらゆる主体が適切な役割分担の基に、それぞれに、または連携して環境保全や美化活動の促進を図ります。</p> <p>また、生活関連施設としての根幹である公共下水道や合併処理浄化槽の整備・普及を推進するとともに、環境に負荷の少ないくらしや自然エネルギーの活用などを進め身近な地域環境の保全を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 環境保全 ● 河川・生活排水 <p>循環型地域社会の形成</p> <p>環境にやさしいくらしの実現を図るため、町民、行政、事業者が協力し、家庭や事業所における廃棄物の再利用や、資源の循環利用などを進める循環型社会の構築を促進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 廃棄物処理

【社会の動向】

- 地球温暖化対策（二酸化炭素の抑制）
- SDGsの推進
- プラスチック利用の抑制（海洋プラスチックごみ削減対策）

【アンケート調査】

- 「良好な地域環境の形成（環境保全／河川・生活排水）」に対する重点的に取り組むべき施策の優先度は50.3%で第5位（19項目中）となっており、上位に挙げられている。
- 「循環型地域社会の形成（廃棄物処理）」に対する重点的に取り組むべき施策の優先度は42.3%で第10位（19項目中）となっている。

【ワークショップでの意見】

◇ 目指したいまちのイメージ「自然と共存した安全・安心な町」

- ごみの分別がしっかりしている
- カラス危険の看板が春にほしい
- 山、海を整備する、ごみ等をなくす
- 荒れた山を整備する人がいない
- バイオマスで発電

【卓話集会等での意見】

- ごみ出し困難者への対応（戸別収集など）
- ごみ集積場所の適正管理

【各種団体との意見交換会】

- 高齢化が進むとごみ出しが困難な人が増えると思う。有料化しても戸別収集の実施を検討してほしい。

柱Ⅲ 快適でくらしやすいまちづくり

3 魅力ある快適なくらし空間の形成

第五次総合計画（案）	第四次総合計画
<p>ゆとりや快適さが確保されたくらしやすい住まいの場や、魅力ある町並みを整備するとともに、空き家等の利活用を促進し、住み心地の良さを感じることでできるまちづくりを推進します。</p> <p>また、大磯港「みなとオアシス」、明治記念大磯邸園や旧吉田茂邸などの交流拠点を太平洋岸自転車道でつなぎ、一体的に活用することにより、ふれあい交流の空間として、町の魅力を高めていきます。</p> <p><策定の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ くらしやすい住まいの場と、魅力ある街並みの整備 ○ 空き家等の適正管理と利活用の促進 ○ 住み心地の良さを感じられるまちづくりの推進 ○ 歴史・文化とふれあえる空間利用の推進 	<p>安全で快適なくらしやすい住まいの場を整備するとともに、魅力ある町並みの整備を促進し、そこにくらす人、訪れる人がゆとりと活力を感じることでできるまちづくりを推進します。</p> <p>また、町の中央部に位置する運動公園や城山公園などの施設の一体的な活用を図ることにより、町民のふれあい交流の空間としての整備を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 土地利用 ● 住宅・住環境 ● 景観形成

【社会の動向】

- コンパクトな市街地の形成
- 空き家の増加
- まちづくり基本計画の策定

【アンケート調査】

- 「大磯町でどのような生活をしたいか」という設問に対して、以下が上位を占めている。
 - ① 日常的に山、海、川を楽しみ、菜園を楽しむような自然にまつまれた生活をしたい。
 - ② 町内で買い物や休日の娯楽などを楽しめるような都市的生活をしたい。
 - ③ スポーツやアウトドアなどのレジャーを楽しみながら健康的な生活をしたい。
- 日常生活で不便しないまちづくりを進めてほしい。（自由記述）
- 身近な生活環境が整っていない。（自由記述）

【ワークショップでの意見】

- ◇ 目指したいまちのイメージ「今あるものを大事にする、活かす町」
- ◆ 空き家の活用
 - 住居状況ネットワークを作る
 - 空き家を民泊に
 - 空き家バンクの応用（MAPは？）

◆ 道路環境の整備

- 道路の整備（道の雑草取り）
- 危険なところを町役場に知らせる仕組みをつくる → ごみ拾いとかしながら

【卓話集会等での意見】

- 土地利用の見直し（線引き、用途地域、規制等）
- 高層建築物がないことは町の魅力
- 人口増加のための高層住宅の整備
- 大規模工場跡地の活用、適正な維持管理
- 広域的な土地利用の推進（近隣自治体との協力）
- 空き家の活用（移住促進、活用補助、マッチング）と適正管理
- 閑静な居住環境の維持
- 中心市街地の活性化
- 住宅の確保（用地確保、マンション建設など）
- 大磯高麗1号線（旧東海道松並木敷）の整備
- 旧東海道（中丸地区）を再現する景観整備
- 歴史的建造物の活用
- 河川沿いの景観維持

【各種団体との意見交換会】

- 古い空き家に魅力を感じている人も多く、呼び掛けることで定住につながる。
- 山の自然を削り住宅を建てるのではなく、平地の空き家のあるところにリフォームや新築などで居住してほしいので、補助制度の創設や規制がほしい。
- 斜面地の開発により山崩れ等の甚大な災害が発生しており不安がある。空き家の活用について考える必要がある。
- 市街化調整区域等の規制を緩和できれば、土地活用の幅が広がるのではないかと。
- 大磯町のブランド力は高いと思うが、ブランド力と住みよい環境との両立は難しい。
- 町は人口にこだわりすぎているようだが、大磯での暮らしの質を高めることが重要である。

柱Ⅳ 心豊かな人を育むまちづくり

1 次世代を担う人づくりの推進

第五次総合計画（案）	第四次総合計画
<p>学校、家庭、地域が一体となって、次世代を担う子どもたちをみんなで育てます。子ども一人ひとりの教育ニーズに対応し、子どもたちが生きる力を身につけるよう、時代の変化に対応した特色ある教育内容や教育環境の充実を図り、人と人との関わりの中で、確かな学力・健やかな体・豊かな心を育む学校教育を推進します。</p> <p>また、地域の人たちとの様々な関わりの中で、青少年が自主的に参加できる社会参加活動や体験学習などを通じて、地域ぐるみで青少年の健全育成を図ります。</p> <p><策定の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育大綱の基本理念・基本目標・基本方針に基づく取組みの推進 ○ 時代の変化に対応した特色ある教育内容や教育環境の充実 ○ 地域ぐるみによる青少年の健全育成 	<p>児童・生徒の個性、能力、自主性を尊重し、教育内容や教育環境の充実を図ります。国際化や情報化などの時代に対応した教育を進めるとともに、地域との交流や体験学習など、多様な総合学習の機会を提供していくことにより、本町の特色を生かした人づくりを推進します。</p> <p>また、児童の健全育成と子どもの居場所を確保するための環境整備を図り、学校、家庭、地域の連携により、青少年の社会参加活動や体験学習など、地域ぐるみで青少年の健全育成を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 保育・幼児教育 ● 学校教育 ● 青少年

【社会の動向】

- コミュニティ・スクールの推進
- 新学習指導要領の導入（英語教育、プログラミング教育）
- ICT教育の推進

【アンケート調査】

- 「次代を担う人づくりの形成（保育・幼児教育／学校教育／青少年）」に対する重点的に取り組むべき施策の優先度は63.1%で第3位（19項目中）となっており、上位に挙げられている。
- 大磯町について学べる機会があると良い。（自由記述）

【ワークショップでの意見】

- ◇ 目指したいまちのイメージ「誰もが風通し良くくらせる町」
 - 子どもの頃から話し合う場をつくる
- ◇ 目指したいまちのイメージ「自然と共存した安心・安全な町」
 - あいさつ運動

【卓話集会等での意見】

- ニーズを反映した幼児教育・保育の実施
- 学校教育の充実（学力向上、道徳教育など）
- 教育費の無償化
- コミュニティ・スクールの推進
- 教職員が教育活動に専念できる環境づくり（部活動の負担軽減など）

【各種団体との意見交換会】

- 小中一貫校が実現できると良い。大磯町だけの特徴的な体験学習を実施し、他の自治体と差別化できると効果的である。
- 夏休みや雨の日に子どもが遊べる施設がない。平塚市の子どもの家のような施設があると良い。空き家を活用することも1つの考えである。
- 幼児教育・保育の無償化により、私立の幼稚園等を利用する方が増えていき、町立幼稚園の利用者が減っていくことが想定される。このまま町立幼稚園を存続するのではなく、早めに対策を取っていく必要があると考える。
- 中学校給食が実現すれば保護者としてありがたいが、人口減少等を考えると多額の費用を掛けることが心配でもある。既存の施設を活用して効率的に実現してほしい。

柱Ⅳ 心豊かな人を育むまちづくり

2 ゆとりを育む生涯学習の推進

第五次総合計画（案）	第四次総合計画
<p>町民の一人ひとりが生涯にわたり、自由に学習機会を選択し、ともに学ぶことができるように、学習機会や学習情報提供の充実を図ります。</p> <p>また、町民主体の地域に根ざした文化・芸術活動が行われる環境づくり、学びを通じて地域に生かす心豊かな人づくり、人とのつながりを広げるまちづくりを推進します。</p> <p><策定の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生涯にわたり自由に選択し、ともに学ぶことができる学習機会や学習情報の充実 ○ 地域に根差した文化・芸術活動が行われる環境づくり ○ 心豊かな人づくりと、人とのつながりを広げるまちづくりの推進 	<p>町民の一人ひとりが、自ら学び、活動することができるように、学習の場や学習情報の提供の充実を図ります。</p> <p>また、様々な活動を通し、喜びや生きがいを見出すことができる環境づくりや心豊かな人づくりを推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生涯学習

【社会の動向】

- 人生100年時代
- 超スマート社会（Society5.0）
- 社会教育を基盤とした人づくり、地域づくり、つながりづくり

【アンケート調査】

- 「ゆとりを育む生涯学習の推進（生涯学習）」に対する重点的に取り組むべき施策の優先度は20.8%で、それほど高くない。
- 習い事をするためには、平塚市の公民館のお世話にならないと何も始まらない。（自由記述）
- 滄浪閣跡地に是非学習スペースをお願いします。（自由記述）

【ワークショップでの意見】

- ◇ 目指したいまちのイメージ「ちょっと立ち寄れる居場所、魅力ある町」
 - 公民館を開放する
- ◇ 目指したいまちのイメージ「誰もが風通し良くくらせる町」
 - 町民のたまり場を作る。行政は遠目で、管理しすぎない
- ◇ 目指したいまちのイメージ「自然と共存した安心・安全な町」
 - ボランティアセンターの創設

【卓話集会等での意見】

- 歴史・文化を生かした社会教育の実施
- 地域の人材の活用

- 生涯学習施設の新規整備（図書館、音楽ホール、美術館など）

【各種団体との意見交換会】

- 特になし

柱Ⅳ 心豊かな人を育むまちづくり

3 誰もが尊重される社会づくりの推進

第五次総合計画（案）	第四次総合計画
<p>町民一人ひとりが互いを認め合うとともに人権意識を高め、性別、年齢、人種等に関わりなく、あらゆる分野で個性や能力が発揮できる、差別や偏見のない思いやりと多様性のあるまちをめざし、人権教育や啓発活動を推進します。</p> <p><策定の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 差別や偏見のない思いやりの醸成と多様性を認め合うことによる人権意識の高揚 ○ 誰もが能力や個性を発揮できる社会づくり 	<p>誰もがいきいきとくらす社会を実現するため、一人ひとりの町民が人権意識を高め、差別や偏見のない思いやりのあるまちをめざし、人権啓発、人権教育を推進します。</p> <p>また、男女共同参画社会の実現に努め、あらゆる分野で、能力や個性が発揮できる環境づくりを進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人権・男女共同参画

【社会の動向】

- 1億総活躍社会の実現
- ダイバーシティの推進
- 多様な性（性的指向、性自認、LGBTなど）への理解促進

【アンケート調査】

- 「誰もが尊重される社会づくりの形成（人権・男女共同参画）」に対する重点的に取り組むべき施策の優先度は27.3%で、優先度はそれほど高くない。

【ワークショップでの意見】

- 特になし

【卓話集会等での意見】

- 特になし

【各種団体との意見交換会】

- 特になし

